

# 協働学習による文章を書く技術の授業の可能性及び課題

## —フエ大学外国語大学3年生を対象とした事例から—

Thực trạng và giải pháp triển khai hoạt động hợp tác trong giờ học Kỹ năng viết văn bản:

Nghiên cứu trường hợp sinh viên năm thứ 3 Khoa Ngôn ngữ và Văn hóa Nhật Bản,  
Trường Đại học Ngoại ngữ, Đại học Huế

グエン ティー フオン チャー・ダオ ティー トウイ ニー

NGUYỄN Thị Hương Trà, ĐÀO Thị Thùy Nhi

フエ大学外国語大学

Trường Đại học Ngoại ngữ, Đại học Huế

### 要旨

本研究は、「文章を書く技術」の授業を協働学習でデザインした実践について調査した。本調査の目的は、文章を書く技術の授業における協働学習の可能性について探ることである。調査対象としたのは3年生の2つのクラスである。データとしては授業後の内省シート、教師の観察記録などである。分析課題は以下2点である。

1) 授業中、学習者にはどのような学習の様子が見られたか、2) 本実践に今後協働作文活動を取り入れたことの効果は何か、問題点はどこか。その結果、本実践からは協働学習導入の可能性が見いだせたが、同時にいくつかの問題点も明らかになった。

**キーワード:** ピア・ラーニング、文章を書く技術、自律的な学習、学び合い、人間関係作り

### Abstract:

This study explores the practice of lesson design through Peer learning activities in the "Writing skills" subject to clarify the applicability of Peer learning activities to this subject. The study subjects included students in two classes year of the 3rd year class. Data was collected from the student self-evaluation sheet and the teacher's observation notes after each class. We conducted two analyses, including 1) How did the learners learn during the lesson 2) What are the effectiveness and insoluble problems associated with implementing Peer learning in the "writing skills" subject. The results show that this activity can be applied; however, some issues need to be clarified.

**Keywords:** Peer Learning, Writing skills, Self learning, Learning from each other, Building relationships

## 1. 本研究の背景と目的

世界の教育ではここ数年、「自律的学習」「批判的思考」などの能力をもつグローバル人材の育成を目的として、ベトナム各地の大学において協働学習が注目を集めている。また、ベトナムの日本語教育でもこれをテーマとする現職教師研修も急速に増えてきている。こうした中、協働学習に関する研究は、ベトナムでも2009年から始まり、これま

で北部のハノイ大学やハノイ国家大学を中心だったが、近年は中部のフエでも協働学習の実践研究に取り組んでいる。

フエ大学外国語大学では2020年12月から2021年3月までの4ヶ月にわたって協働実践研究会によるオンライン長期型研修を実施した。研修に参加した教師たちは研修で学んだ協働学習を自身の教育現場への活用を試みてきた。本稿では、「文章を書く技術授業」において協働学習によるピア・レスポンス（協働作文学習）の事例をとり入れ、1) 学習者にはどのような学習の様子が見られたか、2) 協働学習における効果および問題点は何か、を明らかにした上で、今後の改善点について考察する。

## 2. 協働学習の作文活動（ピア・レスポンス）

協働学習の作文活動であるピア・レスポンスとは、作文の推敲のために学習者同士がお互いの書いたものを書き手と読み手の立場を交替しながら検討する活動のことである。

## 3. 文章を書く技術の授業

### 3.1 授業概要

本授業は3年生86人を対象とした必修科目で、日本語の文体、段落など文章の形式的な技術と、分類、定義、比較・対照、因果関係など論理的思考力を身につけることを目標とする授業である。授業は全15週間、1週間に3コマ（1コマ50分）、2022年8月から12月まで行われた（全45コマ）。ピア・ラーニングの活動を取り入れ、次のような流れで導入した。①ペアをつくり、②書いた文章をお互いに検討する。③活動を振り返って内省シートに記入する。④作文を推敲する（事後課題）。

### 3.2 調査方法

「文章を書く技術」の授業を受講した2つのグループにピア・レスポンス活動後、アンケートを書いてもらった。従来の「教師主導」のままでもいいか、または「協働学習」の授業がいいか。今回の協働学習実践の導入の調査内容は、①友達同士で何を学んだか、②どの態度で参加したか、③この活動の利点、④この活動の問題点である。

## 4. 調査結果

### 4.1 調査対象とデータ

調査対象として二つのクラスを取り上げて分析した。各クラスは43名で合計86名である。しかし、欠席、未提出があったため、調査シートは74名分の回収となった（Aクラス38名、Bクラス36名）。回収したシートのうち、第4週目、第8回目と第13週目の3回分について分析対象とした。最終授業の第15週目は授業調査として学生へのアンケートを行った。

### 4.2 結果と考察

#### 4.2.1 利点

このアンケート結果は、表1の通りである。「ピア・レスポンス活動」に肯定的な評価は72名（97.3%）、否定的な評価は2名だけであった。内省記述の分析からは、学べた

ことは第4回目は日本語の文法、語彙が59名（77.6%）だった。第8回目は、作文の構成、作文の内容などの回答が94.7%であった。第13回目の内省からは、文章の直し方、友達へのコメントの具体的な記述がみられた。例えば、「段落2と段落3は一つにした方がいい」「フエにどんな街になって欲しいかの理由や具体的な例をあげたほうがいい」など、内容的や構成に関するコメントが挙げられていた。また、最後のアンケートの結果では、学生のコメントには「仲間同士学びあう」「コミュニケーションの力の向上」「自律的な学習」へ言及した部分がいくつか見られた。

表1 調査結果

順位	質問内容	学生の人数	%
1	ピア・レスポンス活動をしたほうがいいのか	72	97.3
2	学べたことは何か：日本語の文法、語彙	59	77.6
3	学べたことは何か：作文の構成、作文の内容	70	94.7
4	宿題をしてきたか（前の準備）	52	70.3
5	ピア・レスポンス活動から学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間同士学びあう</li> <li>・コミュニケーションの力の向上</li> <li>・自律的な学習</li> </ul>	
6	その他の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手は何も意見を言わない</li> <li>・直されたことを疑った</li> <li>・最初は何をしなければならぬのか迷った。</li> <li>・意見が違った</li> <li>・友達の作文が直せない</li> </ul>	

協働学習を通して、何か変化したかについての結果は、「仲間同士で学びあう」、「コミュニケーションの力の向上」、「自律的な学習」、「人間関係作り」などとみられた。他に、意見交換も楽に話せたとか、考える力が高まったという答えも出た。つまり、協働学習によって、コミュニケーション力が高まったと感じ、人間関係や意見交換への影響が確認された。

また、学生のコメントには、グループ活動を通してお互いに勉強できる、コミュニケーション力の向上を感じた、人間関係が深まった、自習能力が向上するとかということがある。一方、いくつかの否定的なコメントも挙げられた。メンバーとの時間を作るのが難しいこと、意見の違いが出たら、時々関係が悪くなった、友達の書いた文法や言葉遣いが判断できないこと、締め切りを守らない学生がいること、などである。しかし、全体としては肯定的な意見の方が多かった。

#### 4.2.2 問題点

本調査の結果から、次の3つの問題点が明らかになった。それは、①学生の準備の不足、②グループ活動になれないこと、③日本語能力の差があることである。宿題をしてこないと参加できない。しかし、29.7%の学生が宿題をしなかった。また、日本語が上手な友達と活動したら、自信がない、できる学生は退屈し、意欲が低下する傾向が分かった。

教師の観察、記録からは、次の3点が問題点としてあげられる。それは、①教師の説明

の不足、②学生の参加度の評価の不足、③グループ分けの工夫の不足である。

## 5. 結論

この結果から、協働学習を文章を書く技術の授業へ導入することの可能性が見いだせた。一方で、最初に教師からの丁寧な説明が不足すると、学生は十分な参加ができないことや、緊張度をやわらげ、動機を高めるための前活動や協働学習の意義、効果などについての説明が必要だったと考えられる。

## 参考文献

- 池田玲子・舘岡洋子 (2007) 『ピア・ラーニング入門 創造的な学びのデザインのために』  
ひつじ書房
- 池田玲子・舘岡洋子・朱桂栄・林洪 (2014) 『日語協働学習理論と教育実践』中国高等教育出版
- NGUYEN Thi Huong Tra ・TRAN Thi Khanh Lien (2022) 「ケース教材の使用とグループ学習によるビジネス日本語の授業—フエ大学外国語大学4年生を対象とした事例から—」アジア人材還流学会ハノイ国際セミナー2022

## <著者>

グエン ティー フオン チャー **NGUYỄN Thị Hương Trà**

博士、フエ大学外国語大学日本語・日本文化学部学部長

Tiến sĩ, Trưởng Khoa Ngôn ngữ và Văn hóa Nhật Bản,  
Trường Đại học Ngoại ngữ, Đại học Huế

連絡先：nthtra@hueuni.edu.vn

主な研究分野：協働学習、日本語・日本文化

主な論文：

“Active teaching activities at the Department of Japanese language and Culture, University of Foreign Languages, Hue University - peer learning activities in a Japanese writing class”, 2021, *Journal of Language and Life Linguistic Society of Vietnam* No 7 (314), pp. 41-48.

近藤彩、桑原和子、NGUYEN Thi Huong Tra、DANG Thai Quynh Chi、池田玲子; 「活動型ビジネス日本語教育への展開と課題：ベトナム人教師研修の観点から」 (2021)、  
専門日本語教育研究第23号、pp. 91-98

NGUYEN Thi Huong Tra、桑原和子; 「ベトナムにおける日本語教育の歩みと国際化への課題 —フエ大学外国語大学の取り組みを事例として—」 (2022)、3rd International Conference on Culture and Education (ICCE 2022), pp. 607-614.

ダオ ティー トゥイ ニー **ĐÀO Thị Thùy Nhi**

修士、フエ大学外国語大学日本語・日本文化学部講師

Thạc sĩ, Giảng viên Khoa Ngôn ngữ và Văn hóa Nhật Bản,  
Trường Đại học Ngoại ngữ, Đại học Huế

連絡先：dtt nhi@hueuni.edu.vn

主な研究分野：協働学習